

# ホームレスのお遊戯



仮想世界から帰還してから無事平穏な暮らしに戻った環達。  
皆『あれは何かの夢だったのだろう』と笑って忘れることにした。  
何事もなく日常は過ぎてゆく……。  
しかしあの世界で体験した異種交尾の味を忘れられる訳もなく。  
現実世界でも様々な『遊び』を進んで行う環達…。

学校からほど近い市民公園。

都心の公園では珍しく広い土地を使い遊具も充実した近隣住民の憩い場所だ。  
青い芝生が広がり 休日は家族連れがピクニックなど楽しむ姿が見える。  
しかしそういう場所には得てしてふさわしくない人間が居ついでしまうものだ。  
『浮浪者』『ホームレス』公園の奥にはその手の人間が勝手に居座ってしまい  
役所の悩みの種となっている この公園も例に洩れず彼らの溜り場となっている  
学校帰り 一人で公園に足を運び真直ぐに奥へ進む環 目当てはここ、  
手入れもされてない薄暗い場所にホームレスの目印、ブルーシートの  
佇まいが乱立するそこへ、うら若き少女が訪れる  
『こんにちわ お久しぶり』環がよく通る声をかけると  
薄汚いホームレスが二人テントから出てくる  
『よう姉ちゃん』ニヤニヤと笑いながら嘗めるような視線を投げかける。  
頭髪も薄く無精ひげも伸びてる中年のホームレス二人  
面識があるようで慣れた様子で環と話す 余りに似つかわしくない組み合わせだ  
何か月も風呂に入って無いのだろう 膾えた臭いが鼻を突くが環は  
お構いなしで会話を続ける  
『遊びに来ちゃったわ』『へへ、物好きなお姉ちゃんだなあ』『ほれ入ってこい』  
歯も磨いておらずニチャッと粘つく音を立てて笑う彼等  
この構図だけで通報物だが 幸か不幸か周囲に一般人の姿はない……。  
環は促されるまま彼等の住まいに足を踏み入れる。





腐敗臭漂うテント内『相変わらずね…』中は住民にふさわしくゴミが散乱している  
『いいじゃねえか ホレこっちに來い』

彼らの寢床、汚れたマットに座る環に男達が制服越しに乱雑に胸をまさぐる

『ホントでかいチチしてんな ソープでもこんなのいねえだろ』

『最近のガキは何考えてるか判んねえなあ…』

好き勝手言いながら無遠慮に乱暴に柔肉を揉みしだく。

『もうっほんと男って…』文句を言いながらされるがまま微笑む環

女子高生がホームレスの住まいで彼らに身体を委ねる、あり得ない光景…。

『環のお遊び』化物に犯し尽された彼女が現実世界で疼く肢体を持て余し  
思いついたソレ 要するに彼等浮浪者を現実世界の化物としてご指名した訳だ。

女に飢えた本能丸出しの雄 よく理に適っている

ニヤニヤ笑いながら久方ぶりの女の身体を味わうホームレス共

甘い女子高生の匂いを胸いっぱい吸い込みながら

ブラを外しはみ出た柔肉…おっぱいを弄ぶ たぶたと下から叩き揉み捏ねる

『ホント溜んねえわ なんだこりゃ？ガキのクセに全くよお…』

(もにゅっにゅっむにるっ にゅっ にゅんっ たぱっ たぱんっ)

普段絶対に味わえないであろう女の肉を思う様堪能している様だ

張り良きたっぷりとした重量感ある肉に埋めた手が押し返される

『あっ あはっ もっとお♡』『ヒヒッ慌てんなよ』

『ほれ さくらんぼが出て来たぞ♪』実に『らしい』語彙で環の乳首。

(くりゅっくりゅっ コリコリッ くきゅうウウツ…！)

『ひんっあっ それ イイツ！』

陥没したそれを汚い手ではじくり出し指先で捻り上げ捏ね回す

巨乳を揉み込みながら桜色の乳首をカリカリ引っ搔き 摘み 扱き上げる

乱雑に揉み上げる度甘い吐息を吐いてしなだれかかってくる美少女。

男としては溜らない『お遊び』だろう



うっいいぞ姉ちゃん  
そのまま皮剥いて  
キレイにしてくれや

ゴクゴク

んん……  
ピリピリくるわね  
すごい味……♡

ぶあつ

うううっ  
射精るっ！

ゴクゴク

ホームレスの彼等からしたら降って湧いたような幸運だろう  
満足に食事にありつけないような生活の中、自由に使える女が現れたのだから  
『んじゃ、しゃぶってくれや』『ええ♪』二つ返事で奉仕をしてくれるのだ。  
今まで落ち目の人生 セックスなど安い風俗でしか味わった事が無い  
出て来る女は言わずもがな……それもこの生活にやつしてから  
女を抱けるとは思ってもみななかったろう。

しかも飛び切りのモデルの様なスタイルの美少女が進んで  
自分の様な浮浪者に『ご奉仕』をしてくれるのだから堪らない。  
底辺の浮浪者にとっては深い事を考える余裕はない 今の快楽を貪るのみ  
(しゅっちゅるっくちるっ じゅるるっ ちゅっちゅっちゅっちゅむっ)  
『お♪おほおっ』悶えるホームレス テント内にくちくちと粘質な音が響く。  
『んっんむう これ舌にピリピリくるわね♪』

何ヶ月も洗ってないペニスを迷うことなく嘗めしゃぶってくれる少女  
二人のソレを相手する環 手で扱き口で奉仕する

先程のお返しとばかりに包皮に包まれたソレに舌をねじ込み弄ぶ

内部を舌でかき回し 唾液でふやけた皮を器用に剥くと

恥垢塗れの亀頭が露出する 強烈なアンモニア臭に饞えたイカ臭さ漂う

それを唾液を塗しながら丁寧に舌でこそいでゆく

『んっんふっ…♪』『おっおおっヤベっ』

舌先で恥垢をこそぎ取り咀嚼する環 くちやりと噛みしめる度あの化物の  
蟲の交尾器の生臭さが甦りイキそうになる……。

夢中でホームレスの『交尾器』をおしゃぶりして悶える環

『下等生物』にご奉仕して滾り昂る肢体 この行為ですらオナニーなのだ

(ちゅっちゅっ くちっむちっぷちゅるつちゅぶるっむちゅっ)

火が付いたように環がすっかり綺麗になったペニスをしゃぶる。

『おっおあっ！！』(どぶるっぶびっぶびちゅっ ブピッブピッ)

女に慣れてない彼等が絶頂し黄ばんだ精液を少女の口内にぶちまける

こってりとした固形物に近い精液を舌の上で転がして丹念に、

キャラメルを味わう様にクチャクチャ噛み咀嚼する環。





おじ様の手が いいの...  
あーあ

カキカキ

カキカキ

あーあ

おじ様の手が いいの...  
あーあ

カキカキ

カキカキ

カキカキ

カキカキ

あーあ

あーあ

あーあ

あーあ

(ちゅっちゅぐっちゅっちゅっちゅ ぐちゅっ)

『んっ ああっ うっ んあっ』ハッハッ ハァー……っ』

薄暗いテント内に響く嬌声 蠢く肉体……正常位でまぐわう男女  
只 普通のカップルなどではなく女子高生とホームレスと言う事だ。  
シミの付いた臭いマットの上で浮浪者が美少女を組みしだき好き勝手  
腰を振る 明らかに異様な光景だが環本人は構うことなく抱かれる。

『ハッ ハァッ ガキのクセに……一丁前の身体しやがって…』

『ね ねえ もっとお…♡あはあ！』

久方ぶりのセックスに息を上がらせる男に甘える環  
女をイカせる動きではなくゆっくりと身体を味わう  
突きあげられる度制服から零れた巨乳がたぶたぶ揺れるソレを  
思い出したかの様に揉み遊ぶ …はつきり言って下手なセックスだ。

『ホレっほれ……っ これが 欲しかったんだろ なァ？』

勘違いした男は得意げに言葉で責め 拙い手際で行為を続ける  
しかし環は嬉しそうに男を受け入れる

『うんっいいの…激しくして！』こんなことばっかやってっつとバカに  
なっちまうぞ？ まあ全然構わねえけどな……っ へへっ』

(ぐちゅっぐちゅっぐちゅっちゅ ぷちゅっ ちゅぐっ)

カクカク腰を振って夢中で蜜肉を味わうホームレス

『はああっ あはうっ』オラッもっとまんこでチンポしゃぶれ……っ』

『フフッ』最底辺の人間らしい 人を人とも思わぬ物言い、拙い語彙に  
思わず笑いがこみ上げる これが欲しかったのだ。

自分勝手な男のセックスでも環にとっては溜らない

キツイ口臭に体臭 垢塗れの身体に追い被され好き勝手犯される……

本能丸出しで自分の肢体にむしゃぶりついてくるホームレス。

正にあの異種交尾を思い出させてくれる最高の相手だった





よし！  
この手板がずもかいヤまらむ

ついでに料理の  
お返しかり  
飲み止め!!

はああー

はああー

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

『ハアツハアツハアツハアツハアツ』獣のような荒い息

(ぬちっぬちっぬちっぬちっぬちっぬちっぬちっぬちっ)

必死に腰を振り女子高生の瑞々しい身体を味わうもそろそろ限界だった

『う…っ うおっ射精る…っ！』身体を痙攣させ呻くホームレス

『ね、ねえ、そのまま…っ濃ゆいの出して…！』

言われるまでもなく相手を気遣い避妊するなどと言う頭は持ち合わせていない

『これが欲しかったんだろオラ しっかり呑み込め…！』『あはあっ！』

(ブビュッブビッ ブビビッ ブチュウ…！！！！)

そのまま環の奥 子宮目掛け濃厚な精子を大量に撃ち込む

『う…ゆ うっ うう…っ ふう…っ』ビクンビクンと震える度射精をする

どれだけ溜っていたのか想像も出来ない 息をついた後

ペニスを引き抜くと環の秘所からゴボツと精液が零れだす

『あ…はう♡』『おーおー出た出た すげえ量出たわ♪』

股を開き横たわる環の秘肉を指でこじ開け確認する どろどろと精液が

洩れてくる様子を堪能するホームレス 環も恍惚とした表情で微笑む。

『こんなに出して 溜ってたのね おじ様♡』

『いんにゃ まだまだ』少々柔らかくなった己の一物を扱き勃起させると

再び環に押し掛かり ぬめる秘肉に宛がい再び挿入する

『あんっもうっ仕方ないわねえ…あっ あっあっ…♡』

(ぐぷうっ…ぐっちゅぐっちゅぐっちゅぐっちゅぐっちゅ…！)

『ほれっほれっ気持ちいいんか？』調子づいたのかホームレスは

先程より濁った音を立てながら注挿を開始する 環の意思などお構いなしに

行為を続ける セックスと言うよりも女の肉を使った排泄行為といった処か。

そのまま続けて二回程精液を吐き出すまで腰を振るのだった。





おろろ  
モラ一発  
スライダ  
Aのこまめ

楽しんでるよ  
いんじやんか

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

ハハハ

(ちゅっちゅっちゅっ ちゅぷっ ちゅぱっちゅっちゅっちゅっ……)

『おっおほっ いいぞ そのまま奥に残ったの吸い出せ……』

『んっんむっ あむっ くぷちゅ…ちゅぞぞぞっ』

先程のホームレスの股間では環の頭がなまめかしく動いている

悪臭立ち上る股ぐらに顔を埋め後始末 お掃除フェラを丹念にする環

(パチュッパチュッパチュッパチュッパチュッパチュッパチュッ……)

『いやー良いマンコだわ キュウキュウ締め付けてきやがる』

後ろではもう一人のホームレスが好き勝手言いながら

リズムカルに腰を打ち付けバックでセックスを愉しんでいる

『そら出るぞっ うっ うっ……!』『んっんんっ……!』(ブビッブピッ)

本日二回目の射精をする 促すように蠕動しペニスを扱く膣肉。

男は射精の快感を味わいながら少々重くなった子宮内に精液を注ぐ。

『いよう 楽しそうなことしてんな』!!』

徐に扉代わりの幕が開き男が顔を覗かせる 仲間のホームレスだろう

『おう いつものお姉ちゃんだ オイ休むなよ』『んぐっ …ちゅむっ くぷゅっ』

驚き動きが止まった環の頭を抑え込みペニスを飲み込ませる

『んっ んふっ……ふうっ!』(たぶったぶっ コリコリコリッ)

『どうよ最近?』入ってきた男が環の胸を弄びながら訪ねる

『いや全然だなあ』気軽に日常会話を交わしながらセックスをするホームレス

どうやらいつもの光景らしい。既に環を見ておらず物としてしか扱っていない

それでも環は構わず夢中で行為を続ける。

『んっんっんっんっ……!』(くぷっくぷっくぷっくぷっくぷっ……)

『うっ…もう一発ヌイたら代わってやるからよ』『あいあい♪姉ちゃん気合入れろ』

『ふぐっ』『おうっ』乳首を捻ると締め付けが強くなったのか後ろの男が呻いた。

顔馴染みが満足するまで男はボール遊びをする様にたっぷりとした巨乳を手遊びして暇を潰す。





んっんむっ

んぐっ

いいぞ姉ちゃん  
ホレもつとマンコ  
絞めろ おおっ!

んぐっ

んぐっ

んぐっ

んぐっ

んぐっ

んぐっ

んぐっ

ブルーシートのテント内では手狭になったので外に出て行為を続ける。

(ぐっちゅぐっちゅぐっちゅぐっちゅぐっちゅぐっちゅ…！)

『そ そう いいぞ姉ちゃん…おおう、こりゃ絶景だなあ♪』

『はあっ うんっ いいっ』鬱葱とした雑木林に嬌声が響く

地べたに寝転がったホームレスに跨り騎乗位でセックスをする環

ゆっさゆっさと揺れるおっぱいに寝ながら感想を述べる男

『ホレ もっとマンコ絞めろや そうそう…♪』『あっ んうっひんっ』

当然の様に男は環にさせるがまま心地よくぬめる膣肉の感触を味わう

自分は微動だにせず環を愉しませようなどと微塵もない

『お やってんなあ』『おお…♪』

そしてその様子を見て周囲のホームレス達がテントから出て集まってきた。

『んじゃこっちも頼まあ』『はい…♪』

女子高生がホームレスの住処で彼等相手にオーラルセックスをするという

まずあり得ない光景。彼等にとってこれはいつもの光景なのだろう

ごく自然に参加するそのままパンツを下ろし環に洗ってもないペニスを啜えさせる。

空いた手で握らせ手コキをさせる者も。

『んむっ はあっ んぐっ…！ どう かしら…？』

環も言われるがまま腰を振り、しゃぶり抜く

『もっと気合入れてしゃぶらねえと駄目だろ？』『んっくう…！』

己の一物をしゃぶらせてるホームレスは乳首を捻り上げ環の反応を愉しむ

(ゆっさゆっさゆっさゆっさゆっさ…)腰の動きが激しくなる。

『ぐうっ』環に犯されていた男が堪らず呻き声を上げ射精をする

『おっおおっ…小便みたいに出るわ』下卑た笑いを見せながら快感を味わう。

『早よ替われって』『もうちよい もうちよい…お おおう』

出すもの出してスッキリしたのか環をどかす にゅぽっとペニスが引き抜かれる

『あはっ次の人どうぞ…』微笑み環が周囲の男を誘いかける

当然断る訳もなく我先にと甘い女の肉に群がるホームレス達…。





んっ  
ぶっぶっ

うっうっ  
まんこっ  
まんこっ

ビビ  
つかえて箱  
さよとやめや

あはっ  
んっ  
おっ

ビビ

ビビ

たは

たは

あ  
は

あ

あ

流石に人が集まり過ぎた 普通の人間はまず来ないだろうが騒ぎを  
聴き付け公園の管理人がやってくるかもしれない 水を差されるのを嫌い  
場所を変えるホームレス達。

『ここならまあ大丈夫だろ』公園の別の場所 薄汚れ明らかに手入れされていない  
公衆便所 その裏手 周囲を木々とフェンス越しに雑居ビルの壁が囲い  
丁度死角になっている 昼でも薄暗く湿った場所 そこへ集まる。

『おっおおうっ まんこっまんこっ』『うっ うあ…っ ふううっ…！』

(グチュッグチュッグチュッグチュッグチュッグチュッ)

明らかに知的障害が入っているであろう男が後ろから環を犯している  
環は便所の壁に手を突き尻を上げ声を押し殺しホームレス達の相手をしている  
既に何度も射精されて溢れ墜ちた精液が足下に白濁の水溜りを作る始末  
便所のアンモニア臭に彼等の体臭と混ざり異様な臭いを発している

一人の少女を囲い順番待ちするホームレス達

一人が済めば次の人間が それが済めばまた次の人間が替わる代わる犯す。

少女だろうが遠慮などしない 気の済むまで事に及ぶ

『うっうおうっ…！！』漸く達したのかよだれを垂らし快感の味を貪る男。

環は黙って射精を受け入れる 正に精液便所と言うにふさわしい有様だ  
学園一と名高い美少女がこんな姿になっているなど誰が想像できようか…

『オラどけ なげーんだよ』中年と思しき男が余韻に浸る男を押し退ける。

余程溜っていたのだろう もしくは初めてのセックスだったのかもしれない  
抜けても尚 精を吐き出すソレに舌打ちをしながらズボンを下ろし

ガチガチにそそり立つペニスを空いた環の秘所に挿し込む

『まったく、きったねえ…ザーメンでヌルッヌルだなぁオイ』文句を言いながら

腰を打ち付ける 久方ぶりの女の味を堪能するホームレス

話を聴きつけたのかまた数人ホームレス達がやってきた

異様な乱交劇はまだまだ終わらない。





何年ぶりの  
オ、オメコかなあ？

あはっ

グッ

ムッ

グッ



カクカクカク

チ、チンポがすっかり  
キレイになっちまった

カクカクカク

チンポ



カクカクカク

おっおっおっ

カクカクカク

カクカクカク

カクカクカク

背の低い男が環のお尻を撫で回し 柔らかさを堪能している

『へ へへ……オメコなんて な、何年ぶりだろうなあ……』

この生活になる前でさえ明らかに女と縁の無かったであろう男が  
卑屈な笑みを浮かべながらまとわりつく

『んふっ ふあっ……』何度も絶頂に達し返事をする余裕もない環を尻目に

『こ、こんなべっぴんさんとやれるなんてなあ……』ねちねちと

他人の精液を指で掻き出す様に秘肉を捏ねるホームレス

徐に粗末な一物をズボンから取り出す 勃起して尚皮を被っており

剥くとねっとり恥垢に塗れ悪臭を放っているソレを迷わずに

環の肉に埋める『お おほおっ』歓喜の声を上げ夢中で腰を振る。

(パンッパンッパンッパンッパンッパンッパンッパンッ)

『んっんっんっ…… んうっ!』

肉と肉のぶつかる音が響き 男が快感に呻く。

そして直ぐに射精してしまう『おほうっ……! うっうっ!』

時間にして僅か1分…… セックスとも言えない行為でも男は満足した様だ

射精を終え 引き抜くとあれだけ恥垢で汚れていたペニスがすっかり

綺麗になっていた 環の腔肉でこそぎ落したのだろう。

『ヒ、ヒヒっチンポがピカピカになっちゃったよ姉ちゃん♡』

肩で息をする環をからかいホームレスは去って行った。

見れば既に彼らの姿は無く一人取り残された環。

『ふあ……っ』(ゴポゴポ……ッ)

環の秘所から恥垢混ざりの精液がドロドロ溢れだし下の精液溜り

糸を引いて落ちる。

公園に来て数時間が経過……環の胎内はホームレスの精液でパンパンに

なっている そのままパンツを履き制服を整える

『……また来なくっちゃ……♡』

公園を後にし一人つぶやく環だった。